

施策番号 3-1-2	施策名 消防・救急の充実	基本目標	快適で安全安心な暮らしを支えるまちづくり		
		政策名	安全安心に暮らせる生活環境づくり		
	主管課 芽室消防署	課長名	松久哲也	内線	520
	施策関係課				

## 1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図				結果
災害の拡大防止と、緊急時の迅速かつ的確な対応に向けた備えをすすめます。		町民 消防救急体制		<ul style="list-style-type: none"> <li>・予防意識の醸成と、災害・救急時の迅速かつ的確な支援</li> <li>・消防・救急体制の充実を図る</li> </ul>				町民の生命・財産を守る
成果指標	説明	単位	2011年度(策定時)	2017年度実績	2018年度実績	2018年度目標		
① 住宅用火災警報器の設置率	消防署調べ	%	未調査	77.1	62.0	90.0		
② 火災出動件数	消防署調べ	件	11	8	15	8		
③ 防火講習会・普通救命講習会参加者数	消防署調べ	人	1,519	2,603	1,312	2,200		
成果指標設定の考え方	①平成25年度調査から、1年7ポイント程度の上昇を目標とし、平成30年度には90%目指し設定したものの。 ②近年の火災出動の動向から平均値を算出、8件以下を目指し設定したものの。 ③年間一定程度の参加者増を見込み、2,000人以上を維持しつつ、2,200人を目指し設定したものの。							

## 2. 施策の事業費

	2017年度決算	2018年度決算
施策事業費(千円)	341,575	376,801
人工数(業務量)		

## 3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2018年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input checked="" type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	①2018年度からとちぎ広域消防局の要綱に基づき調査した結果、前年度と比較すると設置率は低下したが、芽室町の実態に近い数値と考えられる。 ②増加の原因として異常気象が挙げられるが、出火原因の多くは人為的要因であるため、啓発活動が不足していると考えられる。 ③前年度と比較し半減した理由として、講習会から避難訓練へ内容変更されたことによると考えられる。
②第4期総合計画(後期実施計画)の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	①目標値に届かなかったが、設置率は年々増加傾向にあり、概ね達成できたと考える。 ②異常気象により件数の増加年度があったため、トータルで見ると目標達成できなかったと考える。 ③参加促進対策による参加者増加、国内で毎年発生する自然災害及びH28年8月の台風被害により町民の防災に対する意識が向上したことから参加者目標値は達成できたと考える。
(2) 施策の成果評価に対する第4期総合計画(後期実施計画)の事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	芽室消防署活動事業 芽室消防団運営事業 芽室消防施設整備事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住宅用火災警報器設置状況に関しては、今後も継続調査を行う。H30年6月1日時点の消防庁調査結果では全国設置率81.6%、全道設置率82.5%であり、芽室町の設置率はまだまだ低い状況にある。警報器設置による奏功事例も数多く報告されており、設置促進は住民の安心・安全に繋がることから、各講習会、町内イベント、広報等を通じて設置率向上を目指す。</li> <li>●火災出動件数の抑制には住民の防火・防災意識を根付かせ、発展させていかななくてはならない。町民一人一人が常に「火の用心」の心がけの意識を持ってもらうことが必要不可欠と考える。そのことをしっかりと町民に伝えていくことが重要であり、施策に反映させる。</li> </ul>		

**(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果**

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

※該当に○印

**4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等**

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>施策を取り巻く状況…局出動計画に基づく災害対応及び各種災害出動件数増加に伴い、組合としては署所の消防力の効率化を進めている。しかし、署所単位では車両数及び職員数に大幅な変化がないことから、より一層の効率化と署所間連携の向上を図り、広域のメリットを町民に提供できる環境を整える必要がある。</p> <p>今後の予測…しかしながら救急出動件数は今後増加傾向にあり、救急出動重複率も10%を越えており、重複出動の際は非番週休職員を招集して出動隊を編成することから、現場到着に時間を要する可能性があり、町民に不利益を来すことが懸念される。</p>
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	

**5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画期間において新たに取り組むべき課題)**

<p><b>課題① 救急出動件数の増加</b>          総務省調べで65歳以上の人口について、平成29年で27.7%。令和22年では35.3%と予想されている。芽室町の65歳以上の救急搬送割合が58%であり、将来の高齢者推計から救急出動件数は増加と予想できる。平成29年救急出動件数は739件、内重複は66件であり、広域化による町外出動の増加も予想される中で、次の出動に備えるには非番・週休者を招集する必要があり、招集後の出動となれば現場到着時間の延長が危惧される。今後の出動体制を構築するためにも消防力整備について検討していく必要がある。</p> <p><b>課題② 消防団との連携強化</b>          消防団は、日頃は本業を持ちながら、自分の居住する町の消防団に属することで、火災、災害等が発生した際に消防活動を実施する。大規模災害等常備消防では対応しきれない部分をカバーできる芽室町には大変重要な組織だが、現在定員を満たしていないことから入団促進を図り、消防団機能の充実強化を継続する。女性団員で構成されている第1分団第5部イリス隊12名は、救命講習講師及び独居老人宅へ防火訪問並びに保育所・幼稚園へ防火活動等の消防団活動を行っている。より安心安全に生活できる街とするために、その時代に応じ柔軟な活動を今後も展開しなくてはならない。また、役場防災担当部局との連携を強化し、より密接な関係を構築し、情報の共有・関連事業の新たな展望を協議していく必要がある。</p>
--

**6. 総合計画推進委員会(庁内評価)**

評価	道内外での災害発生などにより町民の意識は高まっている。また、啓発の取組により講習会参加者が策定時から増加するなど、策定時と比較して前進している。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	引き続き防災関係課・関係団体との連携強化を図ってもらいたい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した				

**7. 総合計画審議会(外部評価)**

評価	庁内評価と同じく策定時と比較して前進したと評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人員や装備など、計画的に整備を進めてほしい。</li> <li>・講習会については「熱中症対策」のメニューなど、町民が興味を持ち参加するきっかけとなるようPRしてはどうか。</li> </ul>	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した				